

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193600079		
法人名	有限会社 ほのぼの月寒(1F)		
事業所名	グループホームほのぼの音羽		
所在地	苫小牧市音羽町2丁目10-1		
自己評価作成日	平成29年3月28日	評価結果市町村受理日	平成29年4月13日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail.2014.022_kan=true&JigyosyoCd=0193600079-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成29年3月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

隣にある保育園との関わりを大切にしており、年に数回(クリスマス、運動会、敬老の日)の行事の中で交流や近くの公園で話したり遊んだりする機会があります。また、地域との関わりとしては、町内の方々に声をかけてくださり、ふれあいサロンや盆踊り等に参加させていただき毎回入居者様も楽しんでいます。その他、花見や外食など入居者様の希望を取り入れた外出行事も実施しております。事業所としましては、スタッフ教育の一環として看取りの研修を行いました。今後は口腔リハビリ、認知症についての研修を予定しております。スタッフは入居者様を担当制にし、ご家族様へのお手紙を入れるようになり、大変喜ばれています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

苫小牧市中心部近くの住宅地にある2階建て2ユニットのグループホームである。周辺には公園や保育園、町内会館、バス停などがあり、地域との交流がしやすく、利便性の高い環境である。建物は窓が多くて明るく、手作りの装飾や、馴染みの生活用品、遊び道具などが置かれている。職員は理念をよく理解し、利用者にやさしく接している。職員同士お互いに意見の言いやすい関係を築き、有意義な会議を行っている。地域交流の面では、利用者が町内会の年間行事や、音羽会館で毎月行われる「ふれあいサロン」に参加し、地域の方と交流している。隣接する保育園の児童とも頻りに交流できている。ケアマネジメントの面では、アセスメントシートや介護計画が見やすく整理され、ルールに沿った更新が行われている。日々の記録も、計画目標に沿って適切な記録が行われている。医療支援の面では、内科の協力医による往診体制が整い、職員として看護師を配置することにより、きめ細かな健康管理ができています。看取り支援の面では、利用者や家族の希望にできるだけ対応できるよう、研修を充実している。食事は、メニューや食材の提供者を数回変更し、利用者が満足できるよう改善を図っている。代表者や職員が協力して、サービスの向上に積極的に取り組んでいるグループホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられる (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「笑顔と思いやり」を理念に掲げ地域との交流を大切に、密着したグループホームを目指しています。	法人の理念と事業所独自の理念があり、法人の理念に地域とのつながりについての内容を含めている。事業所独自の理念は職員と一緒に考えて作られたもので、十分に共有されている。各理念を玄関ホールや事務所に掲示している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	2月に1度町内会の方や地域包括の方を招き、運営推進会議を実施している。また、町内で行われる盆踊りやふれあいサロン、保育園で行われるクリスマス会などの行事に参加し交流を図っています。	盆踊りや焼肉会などの町内会の行事に利用者と共に参加している。音羽会館で毎月行われる「ふれあいサロン」に4～5名の利用者が参加し、地域の方とカーリングなどを楽しんでいる。隣接する保育園の児童とも日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実績なし		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内の方々との情報交換、意見などを参考にし、協力・信頼関係を築きながらサービス向上へ活かしている。	会議を年6回開催し、市や地域包括支援センター職員、町内会長、婦人部長などが参加しているが、家族の参加は得られていない。行事や防災、次年度の計画などをテーマに話し合い、議事録を全家族に送付している。	会議に家族の参加が得られるよう、継続的な呼びかけを期待したい。難しい場合は事前に家族から意見を聞いて会議に取り上げるなど、間接的に意見を反映できるような取り組みを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	利用者様の認定調査申請・面談、困り事相談などの連絡をしている。	運営推進会議で市や地域包括支援センターの職員の参加を得て情報交換している。何かあれば直接市役所に出向き、相談や報告を行っている。町内会での認知症サポーター研修の開催に際し、事業所として協力している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	家族へ拘束をしない方針であることの説明と、拘束しないことで起こりうるリスクの説明をしている。また、無断外出を避けるため、ドアに錠をつけている。	身体拘束の禁止の対象となる具体的事項を示したマニュアルを用意して年1回勉強会を行っており、職員は具体的事項を理解している。玄関の鍵は日中はかけず、センサーをつけ出入りが分かるようにしている。次年度以降、防犯のため日中も玄関の鍵を掛ける予定だが、内側からは利用者でも簡単に開けられる鍵である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修への参加と職員会議での情報共有、話し合いを重ね防止に努めている。		

グループホーム ほのぼの音羽

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議にて研修を行い情報を共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居していただく前に入居者様、御家族様の意向を聞き、契約内容を口頭で説明し、理解し納得をして頂いた上で同意をもらっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居の際に本人、家族へ説明要望に変化があった場合、職員会議で話し合い、職員周知に努めている。	家族から得られた意見を「支援記録」に記入し、職員間で共有している。今年度から家族アンケートを実施し、意見を収集している。1月からは利用者ごとに個別のお便りを作成して家族に送付している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議にて、職員の意見を聞き、社内検討した結果反映されることもある。また年1回代表者との面談を行っている。	月1回ユニット毎の会議があり、活発に意見交換している。出席できない職員からは事前に意見を得ている。代表者は職員と定期的に面談を行っている。身体拘束やレクリエーション、感染症対策などの委員会があり、職員が分担して役割を担っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度があり評価される。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修実施(今年3回実施予定)情報共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他社への見学、研修会などへの参加を予定している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人と家族から、これまでの生活の状況とこれからの生活に対しての要望・不安などを聞き、日々の悩みの傾聴を行い安心して生活できる環境づくりに努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に不安に思っていることを聞き、入居者様に変化があった場合は早急に連絡、また家族からの要望があれば話し合いにて意見交換できるようにしている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要な支援を職員全員が理解、周知しケアプランに取り入れ実施している。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の体操、イベント時にレクを行い利用者と共に過ごす時間を増やしている。変化があるとき、声掛けをし悩み・不安を聞き簡単な作業のお手伝いをお願いしている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、家族への手紙を書き、本人の様子などを報告している。家族来所時には家族に直接日々の生活の様子を報告し家族からの不安なども聞いている。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人に話を聞き、職員からも本人に聞いたりしている。又馴染みの方が面会に来られる利用者もいる。	2名の利用者に対して宗教関係の知人が来訪している。年賀状が来る利用者があり、返事の作成を職員と一緒にすることも。町内会の「ふれあいサロン」の参加で多くの知人に会うことができている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お手伝いをお願いするときは、何人かの利用者に集まって頂き、職員が間に入りコミュニケーションを取っている。コミュニケーションを取るのが難しい方は孤立しないよう職員同席の上、コミュニケーションのお手伝いをしている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族と施設以外で会った際には、情報交換をしている。また退去された利用者様の家族から、電話を頂くこともある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話をするのが好きな利用者には話の傾聴をし、居室で過ごすのが好きな方には時々声掛けしコミュニケーションを取っている。	7~8割の方が言葉で思いや意向を表出でき、難しい場合も問いかけの反応や家族からの情報を参考に把握している。アセスメントシートを整備し、生活歴や趣味などの情報も記載している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	変化があった際には職員に周知常に記録にも目を通してしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	表情、言動などその日の状態を把握し、その方に合う対応を心がけている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の暮らしを理解し、向上できるよう本人や家族からの意見を聞き職員会議で意見交換し、介護計画を作成している。	3ヵ月毎に介護計画を更新している。ケアチェック表を作成し会議で意見交換して評価を行っている。モニタリング表や会議録も整備している。計画目標を載せたケアチェックシートにサービスの実施状況や利用者の様子を記入している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録の書きもれがないか、他の職員にも確認してもらう。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別に病院等にリハビリの相談をし、それを実施。様々なレクなど行い個別に新たな興味や趣味の発見をした場合、その提供などに取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設側で必要と判断した際には、関わりを持つこともある。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様の体調の変化には常に気を配り、気になることがあればその都度、相談連絡をし受診している。	ほとんどの利用者が協力医による月1回程度の往診を受診している。その他のかかりつけ医や内科以外の受診は原則家族対応だが、難しい場合は事業所で通院を支援している。個人毎の受診・往診記録を整備し、情報を共有している。	

グループホーム ほのぼの音羽

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員と利用者様の健康観察の情報を共有、個別にケアの仕方などをファイルし、実施している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、なるべく様子を見に行く。情報交換や相談を担当医や看護師、家族と行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在から悪化した場合の説明など、病院や家族と一緒に相談している。	利用開始時に「重度化対応・終末期ケア指針」を説明し、同意を得ている。事業所で過去に看取りの経験があり、今後も条件が合えば看取りを行う方針としている。法人全体で事例発表を含む看取りの研修を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員会議時に情報を共有し、救命講習等に参加している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的避難訓練を実施している。また、町内会の方々が、一緒に参加されることもある。	日中の地震と火災を想定した避難訓練を行い、住民の参加を得ている。一方、今年度の訓練は消防の指導を受けていない。職員1名が救急救命訓練の普及員として、職員に講習を行っている。災害時に必要な備蓄品を用意している。	年2回を目途に避難訓練を行い、うち1回は夜間を想定した訓練や消防署の指導を得た訓練を行うことを期待したい。また、水害や台風、停電などの災害対応マニュアルや資料を用意し、職員間で共有することを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	”してあげている”と絶対に思わないこと”させて頂いている”と思うこと。	利用者の呼び名は名字に「さん」づけである。言葉がけで気になる場合は、その都度注意している。個人情報の管理を徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が難しい利用者には自己決定できるようゆっくりと働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活のペースを理解し、そのペースに寄り添い合わせるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人に好きな色、デザインなどを聞き家族へ相談、外出などもされている。また家族来訪時、本人好みの洋服など持参することもある。		

グループホーム ほのぼの音羽

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	うまく噛めない利用者にはキザミ食でおいしく食べた頂くようにし、食後のテーブル拭き等も手伝って頂いている。	献立や食材を希望に柔軟に対応できる業者に外注し、魚や昔風のおやつが人気である。行事食や外食、誕生会などで本人の希望を取り入れている。野菜の下拵えなどに利用者が参加している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	むせこみのある利用者様にはゆっくりと飲んでいただく様声掛けをし、それぞれ利用者様のタイミングを見ながら支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1人でできない方には、職員がお手伝いし実施。毎日起床後、毎食後、就寝前に実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々に、排泄のタイミング、トイレ誘導の声掛けを行い、失敗が軽減されるよう努めている。	「日常生活記録表」に利用者全員の排泄チェックを記している。利用者の排尿の時間を把握し、手の空いている職員が誰でも誘導している。安心感や羞恥心に配慮した声かけをしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分をすすめたり、便秘予防のため体操を実施している。それでも困難な方には、病院で処方されている便秘薬を使用している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の体調や気分に合わせて対応している。入浴の好きではない方には声掛けをしその方が入浴しようと思える環境づくりに努めている。	日曜日以外の毎日、基本、午前か午後の時間帯で対応し、最低、一人週2回の入浴である。入浴剤の使用や音楽をかけている。昔の話をしながら、コミュニケーションをとっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方それぞれの過ごし方を尊重している。ただ昼夜逆転気味な方に対しては声掛けを行い、日中楽しく過ごして頂けるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋に目を通し、薬の目的や副作用を理解する。調剤薬局に注意点を聞いたり看護師に聞き、その情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	軽作業をお願いし、それをして頂いたときには感謝の気持ちを伝え、又何かをしたと思って頂けるような支援をしている。		

グループホーム ほのぼの音羽

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	春になると、近くの桜を見に散歩に行ったり、遠出はなかなか難しいが、できる限り天気の日スタッフが出かけ、車椅子を押して散歩を楽しんで頂く。	天候のよい時期は主に公園や町内を散歩し、隣接の保育園児の遊ぶ姿や庭先の花々を愛でている。買い物は車でスーパーへ出かけ、好みのものを選んでもらっている。季節感を味わえる外出行事やふれあいサロン、コンサート鑑賞など、積極的に出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を管理するのが難しい利用者様や、経済的にご希望に添えない場合も多い為、施設にて管理させていただくことが多い。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様の声が聞きたい等、希望される場合は、ご家族への電話をして頂いている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間、廊下などには、利用者様がお正月に書かれたお習字やぬり絵など、皆様の見える所に飾り、楽しんで頂けるよう心がけている。	玄関は格子状のガラス引き戸で、左右どちらからでも開け閉めが出来る。共用空間はソファやテーブルの配置を工夫し、思い思いの場所で寛げるようにしている。加湿器を設置し、日差しはカーテンで調整している。季節感ある歌詞付きの装飾を施している。トイレは左右対称の可動式バーを設置している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの近くには、長イス置きお話をしながら、楽しめるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべく使い慣れた物を持参して頂き、安心して過ごして頂いている。	居室入り口に、利用者の作品(習字・塗り絵・紙粘土)を掲示している。タンス、テレビなどが持ち込まれ、家族の写真や好みのポスター、趣味のものが飾られている。温湿度計を設置している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者一人一人”できること”を考え、洗濯物のたたみ、テーブル拭き、もやしのヒゲ取り等、安全に配慮した自立支援をしている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193600079		
法人名	有限会社 ほのぼの月寒(2F)		
事業所名	グループホームほのぼの音羽		
所在地	苫小牧市音羽町2丁目10-1		
自己評価作成日	平成29年3月28日	評価結果市町村受理日	平成29年4月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

隣にある保育園との関わりを大切にしており、年に数回(クリスマス、運動会、敬老の日)の行事の中で交流や近くの公園で話したり遊んだりする機会があります。
また、地域との関わりとしては、町内の方々に声をかけてくださり、ふれあいサロンや盆踊り等に参加させていただき毎回入居者様も楽しんでいます。
その他、花見や外食など入居者様の希望を取り入れた外出行事も実施しております。事業所としましては、スタッフ教育の一環として着取りの研修を行いました。
今後は口腔リハビリ、認知症についての研修を予定しております。スタッフは入居者様を担当制にし、ご家族様へのお手紙を入れるようになり、大変喜ばれています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=0193600079-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成29年3月31日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念に揚げて “笑顔とおもいやり”を職員全員共通認識の中で実施、地域に密着したグループホームを目指す。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しており、2ヶ月に1度、運営推進会議を実施し、町内会の皆様と交流を図ると共に理解を深めて頂いています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実績なし		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内の方を情報を聞き、それを参考にし、互いに協力できる関係を構築し、サービス向上に活かしています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	利用者様の入退院の報告、認定調査申請、面談等、何かあったら連絡する体制を築いています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	御家族様や病院等へ拘束しない方針である事を説明し実施している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	実績なし		

グループホーム ほのぼの音羽

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	スタッフ会議を1ヶ月に1回必ず行き、プリントを配布し研修をしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に利用者様の面談を行い、御家族様の意向を聞き、サービス内容・金額等、よりわかり易く口答で説明し、理解納得した上で、同意を交わします。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書は入居の際、契約時に説明している。職員へ要望が伝わった場合、改善点を職員会議で話し合い、書類作成し、職員へ周知している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に一度、代表者と一対一にて面談を行っています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度にて、適正に評価、およびモチベーションアップに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	平成29年度(3月)より、社内全体で、合同研修を実施した(看取り研修) 交換現場研修については実績なし。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡会や研修会等の参加を通し他社との交流を図っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	御本人様やご家族様から、これ迄の生活状況を聞き、把握した上で入居後、御本人様が安心して生活できる様に取り組む。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族様が不安に思っている事に耳を傾け、入居後はご本人様が安心して生活を送れる様に周知する。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人様に必要な、交換を把握し、ケアプランに取り入れて行く。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の日常を、利用者と共に話し合いながら、家事(掃除など)を行い、支え合う関係を気づいている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族様の意向・協力も得ながら、利用者様が安心して生活できるよう支援している			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの知人等が面会に来られる利用者様もいる。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション等を通じ、普段話さない利用者同士、話ができるよう、職員が間に入りコミュニケーションのお手伝いをしている。			

グループホーム ほのぼの音羽

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	お互いに変化等の情報交換をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	居室やリビング等本人の過ごしたい場所で、過ごして頂いており、適宜なコミュニケーションをとっている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの記録に、常に目を通し、その変化に気を付けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	表情や言動から心身の状態を把握し、その利用者様に合った対応を心がけている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様が、自ら意思表示できない場合は日々の暮らしをよく理解し、日々穏やかに生活していけるように、介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録の書きもれが無いように、常に記入し、他の職員と情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	各利用者別の体操方法等を看護職員等に相談して、実施したり、個別に趣味への発見や提供等に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設側で必要と思われた際には、関わりをもつことがある。ふれあいサロン等は関わりを持っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	常に利用者様の体調には気を配り、必要に応じて受診している。		

グループホーム ほのぼの音羽

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員と日々の健康観察の情報交換を密にし、何でも相談できるようにして、個々の利用者が適正な受診ができるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	担当医師や、御家族と相談しながら行っている。入院中はできるだけ様子を見にいくようにし情報交換や相談に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時より、御家族と看取りの契約を結び、御本人、御家族が希望されれば、御家族担当医、看護師、施設が連携し、支援を行う。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	掲示板や会議・資料での周知や救命講習等参加している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行って対応力をつけている		

Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者、一人一人は人生の先輩であることを常に念頭におき、尊厳を損なうことの無い様な対応に努めている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知度、理解力、性格を理解した上で一人一人に適した説明を日々心がけ、自己決定できるようにゆっくりと働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの生活のペースに合わせてるように努め支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人で行きつけの理容店のある方は、御家族の都合に合わせて外出し、カットしたりしている。又日々の整容や、誕生日、外出に合わせての支援等している。		

グループホーム ほのぼの音羽

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ごく簡単な調理や食器拭き等を、スタッフと共に行ったり、各利用者の好みや嫌いな物のメニュー変化もある。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量を表に記入し、一人一人に適した声かけや、提供方法で、支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後、就寝前と実施をし、声かけやお手洗い等、利用者に応じた支援を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を使用し、各利用者の排泄の間隔把握し、声かけや、誘導の支援を行い、失敗等の軽減に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘になりやすい方には、水分や運動等をすすめ、それでも排泄困難な方には本人に処方されている薬にて対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	面会の多い日曜日を避け、他の曜日で入浴を行っている。体調や気分に合わせて入浴して頂き、会話やラジオ等で入浴を楽しんで頂けるように努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中に居室にて、お休みになられている方もおり、一人ひとりの生活のリズムを崩さないよう配慮すると共に、体調によっても声かけをしている。昼夜逆転の方にも配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的、副作用は多種多様な為、看護師や、調剤薬局等に聞き、理解を深めると共に、処方薬については、注意点を確認し、特に変更時は念入りに確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	簡単な調理や、洗濯物たたみ、ゴミ捨て等をして頂いた時には、感謝を伝え、個人に合わせてたり、皆で楽しめる企画を行っている。		

グループホーム ほのぼの音羽

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、可能な限り、散歩等をして頂いている。又利用者の希望により、買い物等の支援も行っている。			
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	経済的な理由や、体調管理等の面でご希望に添えない場合もある為、施設側にて管理させて頂く事が多い。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望があった場合は、御家族への電話をして頂いています。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの壁や、廊下の掲示板等に基節の飾りをしたり、コミュニケーションによっても利用者様にとって、居心地の良い空間をつくるように努めている。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファで区切った空間を作り、利用者同士で気兼ねする事なく、過ごせる空間を整えている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居する際に、使い慣れた物を持ってきて頂いたり、入居後も、できる限り、ご本人の好みに合った居室にできるようにしている。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の身体動作を把握し、施設内の掃除や、洗濯物たたみ、簡単な調理準備等を、その時の状態に合わせて行う事により、一人一人の力を生かした生活が出来るよう支援している。			

目標達成計画

事業所名 グループホーム ほのぼの音羽

作成日：平成 29年 4月 13日

市町村受理日：平成 29年 4月 13日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議に呼びかけはしているが、ご家族様の参加が得られていない。	ご家族様からの意見が得られる様にする。	運営推進会議に出席が難しい場合は、事前にお知らせと一緒にアンケート等を送り、回答や意見を頂き会議に反映する。	1年
2	35	夜間を想定した避難訓練を行っていない。	次回の避難訓練は夜間帯を想定し、消防にも参加して頂く。	避難訓練を夜間想定プランを作成し、事前に消防へ連絡し参加を要請する。	6ヶ月
3	35	災害マニュアルがない。	災害時における各種マニュアルの作成。	起こりうる災害を調べ各種マニュアルを作成。又、緊急時におけるマニュアル等も作成する。	6ヶ月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。